



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。☎秘書政策課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 新市民病院の療養病床と代替機能について

今回は、「新病院の療養病床」と「代替機能」の考え方についてお話したいと思います。

今の病院は、昭和54年に現在地へ新築移転してから既に36年が経過し、耐震性が十分でない上に、施設の老朽化が進んでいます。加えて、待合室や相談室など患者さんのプライバシーに配慮した



ゆとりのない待合室

場所にゆとりがないこと、また経路や部門間の連絡など動線が複雑なこと、バリアフリー化が遅れていることなど、患者さんの利便性が悪くなっています。高度医療を担うにふさわしい環境とはいえない状況にあり、新病院の建設事業を早急に進める必要があるのです。

多くの方が市民病院に望むことは、不意の病気や怪我に対応できる救急医療であり、緊急手術や入院ができる体制ではないでしょうか。「急性期の診断・治療ができるスタッフと設備が整った病院が近くにある」という安心感を皆さんに提供できるよう平成32年度の新病院開設を目指して、基本計画を策定しています。

新病院の病床数は445床程度としました。内訳は、一般病床405床(45床×9病棟)、回復期リハビリテーション病床40床程度です。結核病床および感染症病床は、一般病床の中で整備する方針とし、療養病床は廃止する決断をさせていただきました。

高齢者の増加に対応するため療養病床などの整備が必要なことは、私も十分承知しています。しかし県が策定を予定している地域医療構想の考えでは、これからは在宅を中心とした医療に変わっていくこと、そして、すでに志太榛原圏域内の療養病床は1,062床あると聞いております。また国も、今後「この病院は急性期病院」「ここは慢性期の病院」といったように病院機能を分担する政策を示しています。

市民病院としては、急性期と療養のケアミックス(混在病床)では運営が難しくなる上に、医師の確保もままならないため、「急性期医療を担っていく」という方針のもと、近隣病院との連携・協力を図っていきます。市としても、24時間訪問看護ステーションの整備(平成28年度予定)、地域包括ケアシステムの充実などを着実に実施していく考えです。

現在、市民病院の療養病床は、退院調整機能を兼ねた運営をしており、長期に入院する患者さんは少数です。将来、新しい市民病院に療養病床がなくなっても、退院調整は一般病床で行っていきます。また、現在長期に入院しておられる方は、引き続き市民病院に入院していただくことも可能です。



市としても、具体的な代替機能を模索し、整備するよう努めていきますので、ご理解の程、お願いいたします。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

相賀地区で、毎年恒例の「相賀谷川をきれいにする運動」を実施しました。今年で32回目となったこの運動は、草刈りや清掃活動を通じて、地元の川を愛する心を住民間に育むことを目的として行っています。

当日は、あいにくの天候となりましたが、各組の多くの皆さんが参加し、例年同様に相賀谷川の両岸と周辺道路をきれいにするため、汗を流してくれました。

この活動は、環境を美しく保つだけでなく、住民間の結

び付きを強くする重要な取り組みだと考えています。今回の運動でも、ふるさとの川の周りや、町内に笑顔と会話があふれ、私たちのきずなが世代を超えて一層深まりました。
(天野弘さん：相賀)

